

17-11 授業解題

島名：グローバル・イシュー

教科（領域）：音楽

単元（教材）：祇園祭の音を感じてわらべうたを歌おう

対象：桃山小学校 小学校1年2組

授業者：響尾真希

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

本学のグローバル人材育成に向けた目標は「地域の文化を体験したり、異文化の人と関わりあつたりする中で、文化や言語について興味を持つ」と設定されている。グローバル・スタディーズの小学校低学年の目標の一つである伝統文化を実践することに关心をもつ」にもつながる授業であった。

ここにこの授業の「強み」は、伝統文化の実践をグローバルな見方を育てるための基盤として位置づけている点にある。「我が国の文化の素晴らしさを知る」といった狭量な内向き志向の実践ではなく、将来多様な文化や言語への興味を育成するための基盤として地域の文化の実践が位置づけられている。

また、音楽科として「鉦の音色を感受する」という学習目標を達成するため、祇園囃子で用いられている鉦の音色を知覚・感受し、その音色を意識しながらわらべ歌「こんちきちん」を歌うという流れで授業が実践されていた。その過程で、音色の感じをそれぞれの子どもが自分のことばで表現して、さまざまな感じ方があることを認めあう活動が行われていた。これもものごとについて多様な見方があるということを理解するという小学校中年学年の目標の基盤として重要な観点である。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発に向けて

桃山小学校では小学校2年生から5年間を通して、さまざまな文化の音楽を扱う。この授業はその導入として地域の伝統文化である祇園囃子が扱われたものである。グローバル人材育成がより確かな骨組みを持つものになるために、こういった学年縦断的な視点を持ってカリキュラム・マネージメントが行われることの重要性があらためて感じられた。